

秋まき小麦の赤かび病・葉枯れ症の防除について

小麦の赤かび病は、減収要因になると共に、人体に有毒なかび毒を生産します。適期防除で発生を抑え、健全粒を維持した栽培を目指しましょう！

○赤かび病について

赤かび病は、複数のフザリウム菌とニバーレ菌によって引き起こされます（表1、写真1）。フザリウム菌の一部では、人体に有毒なかび毒（DON）を生産します。一方で、ニバーレ菌は葉枯れ症も引き起こし、早期に多発した場合は減収します。



写真1 葉枯れ症の止葉




表1 赤かび病の種類と発生条件

菌の種類	発生しやすい条件	かび毒
フザリウム菌	高温多雨	あり（一部）
ニバーレ菌	低温多雨	なし

○赤かび病・葉枯れ症の防除について

赤かび病・葉枯れ症は、薬剤散布で防ぐことが可能です。開花始から7日間隔で3回散布を行います。「開花始（1回目）」は、フザリウム菌、ニバーレ菌の両方に効果の高い薬剤を使用します。「開花始」が感染適期なので、ほ場観察を行い、逃さず散布しましょう（表2）。

表2 赤かび病・葉枯れ症の防除体系（例）

散布時期	開花始	開花7日後	開花14日後
防除薬剤	パラライカ水和剤 500倍	ベフトップジンフロアブル 800倍	シルバキュアフロアブル 2,000倍
生育のめやす			

○赤さび病について

赤さび病は、5～6月が高温乾燥で経過することで多発します。上記の防除体系（例）は、赤さび病にも効果があります。防除後、止葉での症状が進行している場合は、アミスター20フロアブル（2,000倍）を散布します。

- ご不明な点やご相談がありましたら、普及センターまでお問い合わせください。
（2021年6月発行 十勝農業改良普及センター十勝東北部支所）